# まつばらの社寺―年中行事歳時記

## 我堂八幡宮の湯立神楽（ゆたてかぐら）

**2月3日**

浪速神楽の中でよく知られる明治期以降の流派の家元 富永正千代をおばに持つのが我堂八幡宮の宮司の坂野氏。湯立神楽は、釜で湯を煮えたぎらせ、中に笹や枝葉を浸し、その湯を撒くもの。撒かれた湯や飛沫を浴びることで無病息災や五穀豊穣などが願われる。我堂八幡宮では毎年節分の日、昼2時から本殿前、稲荷社前、ご神木の樟を祀る政広大神前の3か所に護摩木をくべた釜がすえられ、富永流の湯立神楽が行われる。

我堂八幡宮（天美我堂4丁目11–20）
中面 MAP 2

## 三宅龍王講の節分大護摩（おおごま）

**2月3日**

屯倉神社 西南角に建つ、三宅の龍王講が役行者を祀る行者堂での「節分奉修紫燈（さいとう）大護摩」には、毎年多くの参拝者がつめかける。夕刻頃、山伏姿の先達らが現れ、行者堂に向かい般若心経を唱え、屯倉神社本殿前や北隣りの酒屋神社でも読経。再び堂前に戻り、旅の先達の答者と地元道場主の問者で「山伏問答」を行う。その後「斧振之儀」「法剣之儀」「法弓之儀」を行い、護摩壇に点火。人々の願いが書かれた護摩木が投入される。

行者堂（三宅中4丁目1–8）
中面 MAP 9

## 屯倉神社の梅まつり

**2月下旬～3月上旬**

枝垂れ梅が有名である屯倉神社では、境内に色とりどりの梅が咲き乱れ、毎年「梅まつり」が開かれる。早春の土・日曜日の2日間、参拝者がお茶席や琴の演奏などを楽しみ、境内が賑わう。祭神の菅原道真が九州・大宰府（福岡県）に左遷され、当地で京都の邸宅の梅をなつかしんだことから、九州の梅も植えられている。境内には神宮寺の梅松院（明治初期に廃寺）もあって、神仏の多くの文化財を蔵する。

屯倉神社の梅（三宅中4丁目1–8）
中面 MAP 9

## 三宅で続くお名号会（みょうごうえ）

**3月28日**

江戸後期以降、三宅の真宗大谷派の三ヶ寺（善長寺・願久寺・玉應寺）が順回りに毎年1度ずつ、親鸞直筆と伝えるお名号の礼拝とお勤めを行う。鎌倉初期の建久2年（1191）、浄土真宗開祖の親鸞が比叡山から聖徳太子廟のある磯長の叡福寺（太子町）に詣る途中、三宅を通り、同地の妻屋家に立ち寄ったのが起こり。妻屋家では、親鸞に願い「南無阿弥陀佛」の六字名号を書いてもらい、屋敷に祀ったのが最初だと伝えられている。

善長寺
（三宅中5丁目15–20）
中面 MAP 16

願久寺
（三宅中5丁目15–16）
中面 MAP 17

玉應寺
（三宅中5丁目10–28）
中面 MAP 18

## 来迎寺の弁財天大会式（らいごうじ　おおえしき）

**4月3日**

融通念仏宗の古刹・来迎寺の鎮守堂に祀られる弁財天は、寺伝によると大宝年間（701～703）に役小角が箕面山で弁財天を彫ったという。のち、融通念仏宗の中祖である法明が元亨年間（1321～1323）に仏法護守のため当寺に祀ったとある。江戸時代以降、弁財天法要が行われ、今では昼1時から大般若経転や護摩供修養のあと、市内随一のもちまき行事が盛大に行われ、多くの参拝者でにぎわう。

来迎寺の弁財天（丹南3丁目1–22）
中面 MAP 19

## 柴籬神社の歯神社祭

**8月8日**

柴籬神社には、合祀されている歯神社前に「歯磨き面」が設置され、さわると歯痛にならないと人々に信仰されている。毎年8月8日 午後8時8分、境内に設置された400灯の庭灯に灯がともり、大阪府下唯一の歯の祭典が行われる。祭神の反正天皇は瑞歯別命（みずはわけのみこと）とよばれ、歯並びが真珠のように美しく、また丈夫であったことから、のち歯の神として付会（ふかい）された。

柴籬神社（上田7丁目12–22）
中面 MAP 7

## 布忍神社の観月祭

**旧暦の8月15日**

旧暦の中秋の名月に当たる8月15日（主に9月中旬）に、午後7時より境内の石舞台にて神事が執り行われる。芸能奉納ののち御神酒に月を写すことで、満月を転じ付き幸運を得る。参拝者が、月を写し飲む姿は滑稽と言えるが、これもまた一興である。毎年、さまざまな演者が芸を披露し、多くの参拝者でにぎわう。現代アーティストのイチハラヒロコとコラボした「恋みくじ」が大人気で、全国から参拝者が訪れる。

布忍神社（北新町2丁目4–11）
中面 MAP 3

## 大林寺のお十夜（じゅうや）と数珠（じゅず）くり

**10月17日**

お十夜は「衆生済度」「五穀豊穣」を祈願する融通念仏宗の念仏会のこと（午後7時）。仏教経典には『人の住む世界において善行を十日十夜の間実践することは、仏の住む理想世界において千年間善行を実践することよりも勝っている』と記される。法要後には参拝者が車座になり数珠つなぎの百以上の大玉を順に手で回し、人々の安寧などを祈る数珠くりが行われる。大林寺蔵の十一面観音像は平安時代後期の作で、市指定文化財。

大林寺（北新町1丁目10–5）
中面 MAP 20

# まつばら歴史さんぽ vol.6

# 祭り紀行

松原市域で受け継がれる歴史ある祭りや年中行事を巡ってみませんか。

阿保地区（阿保地車お披露目曳行）

柴籬神社「御神燈」（上田7丁目）

秋祭りの季節になると、市内でも地車（だんじり）やふとん太鼓が勇壮に駆け巡ります。柴籬（しばがき）神社の絵馬堂前に一対の灯籠が見られます。二基とも立部（たつべ）の氏子たちが寛政（かんせい）四年（一七九二）九月に「御神燈」として奉納したものですが「場所」という文字が見られ、神社に宮入りした地車を置いた所といわれています。江戸時代後半頃から、祭礼に地車が登場したようです。ただ、最初は今のような型ではなく、飾り台や練り物のようなものでした。

市域で現存最古の地車は、明治十四年（一八八一）製作の布忍（ぬのせ）神社の更池（さらいけ）地車ですが、平成三十年六月に入魂式を行った阿保（あお）の阿保地車も明治期の製作です。また、河合（かわい）神社の河合地車は昭和六年（一九三一）製作の豪華なものです。

河合地区（河合神社 秋祭り）

※既シリーズ「道しるべ紀行」（2014年）/「樹木紀行」（2015年）/「史跡・文化財紀行」（2016年）/「水辺の野鳥紀行」（2016年）/「松原名所ぶらり紀行」（2017年）

発　行：松原の歴史を知る会　松原市上田5丁目4-1 /（一財）松原市文化情報振興事業団（ふるさとぴあプラザ）
協　力：松原市　発行日：2018年7月1日

# まつばら歴史さんぽ
# 「祭り紀行」

※祭礼、地車曳行、ふとん太鼓巡行、神輿巡行の日程については、地域・年度によって異なりますので各神社や町会などにご確認ください。

## ① 阿麻美許曾神社 あまみこそじんじゃ

素盞嗚命を祀る。大同年間(806～809)の創建で、天美地区の氏神。明治初年まで神宮寺があった。境内に「行基菩薩安住之地」の石碑が建つ。

【夏祭り】7月16日、17日　【秋祭り】10月16日、17日
大阪市東住吉区矢田7丁目6－18

## ② 我堂八幡宮 がどうはちまんぐう

品陀別命(応神天皇)を祀る。厄除宮として有名。江戸時代から昭和初期にかけて若者が力競べをした「八幡石」「明治石」「龍王石」などの力石が数多く残っている。

【夏祭り】7月15日　【秋祭り】10月15日　【地車曳行】秋祭り当日か直前の土曜・日曜
天美我堂4丁目11－20

## ③ 布忍神社 ぬのせじんじゃ

素盞嗚命などを祀る。本殿は大阪府指定有形文化財。拝殿内の「布忍八景扁額」は市指定有形文化財。不定期だが秋祭りには更地地車が曳行する。板勾欄出入形式と呼ばれ、松原市内の地車の中で古くて大きく、有名な金岡(堺市北区)の河村新吾が明治14年(1881)に上棟。彫師は大阪の西岡弥三郎。

【夏祭り】7月12日、13日　【秋祭り】10月14日、15日
【地車曳行】秋祭り当日か直前の土曜・日曜(不定期)
北新町2丁目4－11

南新町2丁目9－8

## ④ 称名寺 しょうみょうじ

浄土真宗本願寺派。本堂は19世紀前半の文化・文政年間の建築。更池地車は更池地区の称名寺から出発する。安政5年(1858)や明治33年(1900)に本堂が修復されたが、西岡弥三郎ら彫又一門が更池地車だけでなく、本堂や門の彫物も細工した可能性があるという。



## ⑤ 河合神社 かわいじんじゃ

素盞嗚命を祀り、牛頭天王宮と呼ばれた。元文5年(1740)8月16日に「牛頭天王宮」と刻まれた手洗石が残る。地車は泉大津市・浜八町地区より購入。昭和6年の作。

【秋祭り】10月8日、9日
【地車曳行】秋祭り当日
河合3丁目2

## ⑥ 丹南天満宮 たんなんてんまんぐう

菅原道真を祀る。安土桃山時代の流れをくむ三間社流造の本殿は市内でも最古級。丹南藩主高木氏も信仰した。

【秋祭り】10月9日、10日
【地車曳行】秋祭り当日
丹南3丁目6－648

## ⑦ 柴籬神社 しばがきじんじゃ

18代反正天皇の丹比柴籬宮の伝承地とされる。江戸前期には井原西鶴も訪れ歌を詠んだ。反正天皇・依羅宿弥・菅原道真を祀る。境内の歯神社も有名。

【夏祭り】7月19日、20日
【秋祭り】10月9日、10日
【地車曳行】秋祭り当日か直前の日曜
上田7丁目12－22

## ⑧ 阿保神社 あおじんじゃ

菅原道真などを祀る。本殿横のクスの大木は阿保親王お手植えと伝えられ、樹齢1100年という。阿保地車は、阿保地車保存会が大東市・西諸福(元は東大阪市稲田の地車)から譲り受け、2018年6月3日に入魂式・お披露目曳行を実施。明治期、大阪の彫師の辻田友次郎 作。

【夏祭り】7月14日、15日　【秋祭り】10月6日、7日
【地車曳行】夏祭り・秋祭り当日
阿保5丁目4－19

0　1km

## ○印の神社は「開運松原六社参り」社

開運松原六社参りとは、松原市内5座と天美地区の氏神である現大阪市所在1座をあわせた6座の神社を、元旦から15日までの間に参詣する行事。期間内に6座を参詣すれば、六社参拝記念の「開運干支張り子」を授かる。

## ⑨ 屯倉神社 みやけじんじゃ

平安時代の天慶5年(942)の創建と伝える。菅原道真などを祭神とし、道真が九州の大宰府へ赴く際に立ち寄り、腰を掛けたという神形石がある。江戸時代には三宅天満宮などと称した。

【夏祭り】7月25日　【秋祭り】10月1日
【子ども神輿巡行】夏祭り当日
三宅中4丁目1－8

## ⑩ 厳島神社 いつくしまじんじゃ

祭神は市杵島姫命。境内は一部、濠が残り、西側が方形で、東側の本殿が小高い円丘上に建つことから6世紀前後の前方後円墳と推察される。戦国時代には三好氏の出城があったと伝える。神輿と樽神輿2基が練り歩く。

【夏祭り】7月10日　【秋祭り】10月7日
【神輿巡行】秋祭り当日
一津屋5丁目8－19

## ⑪ 深居神社 ふかいじんじゃ

奈良時代の養老元年(717)の創建と伝え、多くの絵馬が拝殿天井に掲げられている。品陀別命(応神天皇)を祀る。境内は古墳の可能性もある。平成11年に地車小屋が焼け、新しい地車の飾彫物を松原市新堂の伝統工芸士である高橋聖峰さん・孔明さん親子に依頼。平成13年の秋祭りから披露されている。

【秋祭り】10月15日
【地車曳行】秋祭り当日か直前の日曜
小川5丁目26－4

## ⑫ 若林神社 わかばやしじんじゃ

品陀別命(応神天皇)を祀る。鎌倉末期の元弘～建武年間(1331～37)に深居神社から分祀されたと伝えられている。

【秋祭り】10月15日
若林1丁目6－30

## ⑬ 大堀八幡神社 おおぼりはちまんじんじゃ

元弘～建武年間(1331～37)、小川の深居神社から分祀されたと伝えられる。品陀別命(応神天皇)を祀る。秋祭りでは、神輿やふとん太鼓が練り歩く。平成27年、大和川沿いから現在地に移転。

【夏祭り】7月14日、15日
【秋祭り】10月14日、15日
【ふとん太鼓巡行】
秋祭り当日か直前の土曜・日曜
大堀4丁目1－3

## ⑭ 熱田神社 あつたじんじゃ

日本武尊を祀る。社号標石の「熱田神社」は藤澤南岳の書。石鳥居の西側に江戸時代のキリシタン灯籠が見られる。

【夏祭り】7月1日　【秋祭り】10月15日
【地車曳行】秋祭り当日か直前の日曜
別所6丁目5－28

## 郷土芸能 高見台楽の復活

ヤレーヨーイー
高見はなれて ドンドン
早や 追分や
ドンドンードンドン
向ふにナ見へるわ
ソーレワサ
布忍橋
ソレヨホホイ ヨホホイ
ヨイ ヨイ ヨイ

昭和初期から途絶えていた高見台楽が半世紀ぶりに昭和55年、復活。高見台楽は、四本の丸太を井形に組んで直径90センチ、長さ1.1メートルの大太鼓を乗せ、その上に直径2メートルの花がさを飾る。これをハッピ姿の男衆が前後18人ずつでかつぎ、その後ろを女衆が太鼓にあわせ、スローテンポな地名をおりこんだ歌を歌いながら、町なかを練り歩く。昭和62年を最後に再び中断され、高見神社内に建てられた「郷土芸能高見台楽保存会格納庫」内に納められたままである。貴重な郷土芸能が再び復活され、地域の結びつきがいっそう深まることを期待したい。

## ⑮ 高見神社 たかみじんじゃ

高見の里3丁目8－29